

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-151	16-321	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Evaluation of an Australian Alcohol Media Literacy Program. オーストラリアのアルコール・メディアリテラシー・プログラムの評価。		
執筆者		
Gordon CS ¹ , Howard SJ ² , Jones SC ¹ , Kerwin LK ² .		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2016 Nov;77(6):950-957.		
キーワード		PMID:
メディアリテラシー、飲酒行動、		27797697
要 旨		
<p>目的： メッセージ解釈処理モデル、接種理論、構成主義学習理論の基礎となる 10 レッスンからなるアルコールメディアリテラシープログラムが開発され、オーストラリアの文脈に文化的に関連するように調整された。このプログラムは、学生のメディア解体技術を高め、アルコールの飲酒意図を減らすことを目的としている。本研究の目的は、短期間の準実験的試験を通して、これらの目標を達成するプログラムの有効性を評価することである。</p> <p>方法： 小学校は、介入群（83名）または待機リストの対照群（82名）のいずれかに割り当てられた。介入の有効性を評価するために、3つの時点（ベースライン、介入群がプログラムを完了後、待機リスト対照群がプログラムの完了後）で学生にアンケート調査を実施した。</p> <p>結果： 介入および待機リスト対照グループは、介入の結果として著しく高いメディア解体技術を報告した。どちらのグループも社会的基準を大幅に下回っていると報告していたが、待機リスト管理グループは有意に低いアルコールの影響の予想を報告した。アルコールを拒否する自己効力感、アルコール関連商品の好み、介入の結果としての説得的意図の理解には有意な変化はなかった。</p> <p>結論： 今日まで、アルコールメディアリテラシー研究の大半は米国で行われており、テレビや印刷物ベースの広告の解体に注力してきた。本評価は、特定の文化的背景のために開発され、広範な多モード広告を組み込んだアルコールメディアリテラシープログラムが、飲酒行動の既知の予測因子/前駆である信念と態度にプラスの影響を与える可能性があるという証拠を提供する。</p>		